

	発言要旨	市のコメント	担当課	
1	宮沢賢治記念館のリニューアルについて	宮沢賢治記念館は宮沢清六氏がプロデュースして賢治の総合観を提示したものの。リニューアルに関して、市の基本姿勢はどのようなものか。 ・現在の展示構成を基本にして、展示方法は資料に応じた適切な手法で、最新の技術を駆使した機器を活用してほしい。 ・各方面の賢治研究者へ展示リニューアルに関するアンケートを実施してはどうか。 ・宮沢賢治学会イーハトーブセンターの協力を得て、展示監修委員会を設置してはどうか。	基本的に現在の展示コンセプトは継承される。精神そのものは何も変わらないし、観光化などの思いはない。 開館の時と同じ専門業者に決定したと聞いている。開館の時と比べて、同じことをするにも技術が進んでいるし、研究も進んでいるので新しい成果も出ている。 清六氏の世界観はもちろん継承されるし、やり方については、市民の声も聞いて進める。 今後、展示監修について委員会を設置するかは別として、監修は栗原先生に中心になってお願いすることで進めている。5月以降になったら本格的にお願いする。 宮沢氏や盛岡大学の望月先生もお願いすることになると思うが、誰にお願いするかを市で判断するのではなく、栗原さんにその選定もお願いしたほうがいいと思っている。市長名で正式にお願いするつもり。 できれば、修学旅行に合うように3月に完成したいので、研究者全員へのアンケートは考えていない。栗原先生に中心になってもらって、必要な研究者の意見を聞くということはあるかもしれない。	賢治まちづくり課
2	宮沢賢治記念館の管理運営について	宮沢賢治記念館が最も重視すべき機能は、一時資料の収集保存に関すること。原稿を末長く保存して、後の研究者にも役立ててほしいというのが清六氏の望みでもあるので、宮沢賢治作品の原稿は適切に保存および活用していただきたい。 ・一時資料の利用に関して、外部の専門家の意見を聞くシステムを構築してほしい。 ・一時資料の安易な公開等に厳格に対処するため、専門的な知識をもった館長および職員を配置してほしい。	一時資料の収集保存が核心だということは理解している。 外部の専門家の意見を聞くシステムについては、栗原先生や宮沢氏の意見を聞かなければいけないと思っている。 栗原先生は、研究者は一時資料を見たくて来訪するので、生原稿も少しずつ変えて展示したほうがいいのではないかとということと、場所は入口のほうがいいのではないかとことを言っている。 一時資料の取扱いについては専門家の意見を聞きながら考えていきたい。 展示の場所については、事務局のほうで皆さんと話し合って、変えられるなら変えるし、難しいならその旨説明する必要がある。	賢治まちづくり課
3	宮沢賢治イーハトーブ館の管理運営について	当初、記念館は賢治の一時資料の収集保存および展示、イーハトーブ館は研究資料の収集および集会活動を行う施設として位置づけられたはずだが、現状は、二つの文学館がそれぞれに事業を展開している。 ・イーハトーブ館は、本来の設置目的どおり調査研究および集会学習の事業を展開するべき。 ・専門性をもった団体等に管理運営させてはいかががが。 ・館の運営に、市民が参画する仕組みをつくってほしい。	基本はそうだと思うが、重なる事業を分ける必要はないのではないかと。 館の運営に市民を参画させるのはいいと思うが、どういう形で参画してもらうかをイーハトーブ学会と十分に話し合わなければうまくいかないと思う。 管理運営を団体やNPOへお任せしてしまうと、宮沢賢治記念館やイーハトーブ学会との連携がうまくいかない時に市から意見を言えなくなる。 具体的な提案があれば検討する余地はあるが、コスト面での判断はいかがなものか。	賢治まちづくり課
4	リニューアル工事による休館中の展示について	休館中はその旨を周知することはもちろんだが、何らかの方法(どこか別の場所)で展示するべきだと思う。イーハトーブ館がいいのではないかと。 観光ボランティアとして、1年間に6000人ほど案内している。8割の観光客は宮沢賢治を意識してくる。 冬場に来る人のほうがじっくり展示を見るので、休館中も展示を考えてほしい。 見る人のことを考えて展示してほしい。	記念館は専門家だけの施設ではないので、子どもから大人まで見られるように、あまり難しいことはやらないようにお願いしている。 工事は、来館者が少なめの12月～3月に実施する。その期間中は博物館の一室(企画展コーナー)を借りて展示できないか検討している。 イーハトーブ館は展示スペース的に足りないことや学会の年間スケジュールの絡みもある。 皆さんの意見を聞いて、場合によってはスケジュールが変わる可能性もある。休館中の展示については早めに相談しておく必要がある。	賢治まちづくり課

	発言要旨	市のコメント	担当課
5	方言かるたを学校で活用することについて 方言かるたを学校で購入して普及させてはどうか。 花巻市に赴任した先生方に宮沢賢治に関する講座を受けてもらえば、関心を持って子どもにも接するのではないかな。	学校で何を教えるか、教材をどう活用するかは、教育委員会と学校現場で判断するべきだと思う。（政治的な立場にある市長が口出しするものではなく） 教育長にどんどん言ってください。	小中学校課
6	花巻弁のコーナー設置について 花巻弁を残そうということで「ぼっこの会」を立ち上げた。賢治作品は方言のニュアンスで聞きたいという人も多い。 地元の声（方言）を聞きたいという人が結構いるので、記念館で、地元の人の声で方言を流して共通語と比べるようなコーナーがあってもいいのではないかな。		賢治まちづくり課
7	企画展示コーナーについて 奥の企画展示コーナーは記念館の中で異質と感じる。 企画展示の機能はイーハトーブ館に移行して、記念館は常設展示をベースとしてはどうか。		賢治まちづくり課
8	まち中での観光案内について まち中には賢治の香りのするところがたくさんある。 観光課の職員などがまち中に常駐して、まち中を歩くコースを案内してはどうか。 賢治の広場に観光ボランティアが常駐できるようにしてはどうか。	市職員を常駐させる余裕はないと思う。 まち中をどう活性化させるかは、一つ一つではなく全体で考えなければいけない。 今年や来年すぐにという話にはならないが、予算の相談もしながら全体で考える必要がある。	賢治まちづくり課
9	市民の活動について ソフト面で市民の出番も考えられるので、その部分だけでも先に動いていてもいいのではないかな。まず、市民が動くようなソフト面に対応できる部分もかなりある。 市民の意見も大事にして連携していければいい。	市民の出番は必要だと思うが、賢治に特化した話だけでなく、武家屋敷をどうするかなど全体を考える必要があると思う。そのうえで、ボランティアにお願いすることや市ができることという話になるのだと思う。 市民のソフト面での活動は必ずしも市が中心でなくてもいい。支援できる方法があれば市が支援するということになると思う。 お互いの情報交換をして連携していくことが大事なので、賢治まちづくり課に話をしてほしい。	賢治まちづくり課